

レトロ・レトロの体験フェスタ2014

with

レトロ・レトロの展覧会

2014.7.19-8.31



主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
共催 滋賀県教育委員会



昔の火起こしを体験！

☆火起こしの道具

舞い錐と火さり臼を使います。

どちらか片方だけでは火はつけられません。

黒くなった穴はもう火が付いた穴だよ。

これはもうつかえないからほかの穴を使おう！



☆火起こしの極意

火さり臼を両足でしっかりと踏んで固定します。

火さり臼の穴に舞い錐の先をはめます。

紐の力を利用して舞い錐を回転させます。

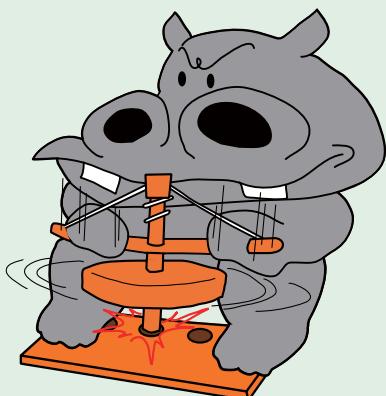
火さり臼に穴をあけるつもりで何度も回転させましょう。

舞い錐の先が穴から外れないように！



「火」は、明かり・暖房・調理など、ヒトが生きていくためには欠かせないものです。

ここで紹介した「舞い錐」式の火起こしは、摩擦熱を利用した火起こし方法のひとつです。



火さり臼が削れてできた木の粉から煙が出てきたらもうひとがんばり。ボウッと炎があがるのではなく、小さな火種ができます。

この火種をもえやすいものに移して、昔の人は火を使っていたんだね。



ろう石で勾玉を作ろう

☆用意するもの

ろう石（やわらかい石）／のこぎりカッター／タッパー（水いれ）／ぞうきん
ぼうやすり（あら）（粗い紙やすりでもOK）／紙やすり（粗いものと細かいもの）

1) おおまかな形を作ります

ろう石に勾玉の形を描いて、のこぎりカッターでいらないところを切り落とします。

後で削るので、大まかな部分だけ大丈夫。

*大人の方へ：勾玉の穴は電動ドリルで開けると簡単です。



2) 棒やすりで形をつくります

ろう石を水につけながら、棒やすり（粗い紙やすり）で角をとっていきます。

水にぬらすとやわらかくなって、削った粉も飛び散りません。

ここでしっかりと形を整えておこう！



作業はタオルなど布の上でていねいにやろう。落とすとわれてしまうよ。

勾玉の先は折れやすいよ。ていねいに削ろう。

3) 紙やすりで磨きます

粗い紙やすり→細かい紙やすりの順で、勾玉についた細かい傷をとっていきます。

必ず、紙やすりも勾玉も水にぬらしてから磨きましょう。



粗いやすりで大きな傷をとっていくよ。



細かいやすりできれいにしあげよう。

完成



古代のアクセサリーの代表「勾玉」。その不思議な形はどのように生まれたのでしょうか？ さまざまな意見がありますが、そのなかには「お母さんのおなかの中にいる赤ちゃん」の形をモデルにしたという考えもあります。勾玉の形には、強い生命力へのあこがれや願いが込められているのかもしれません。



五寸釘で鍛冶体験

☆用意するもの

七輪 / バケツ / コンクリートブロック / ひばさみ

ライター / ドライヤー / かなとこ / ハンマー / 砕石 / ペンチ / 五寸釘

炭 / 皮手袋 / 軍手 / ゴーグル / 新聞紙



火を使う時は十分に注意をして、周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

1) 鍛冶炉をつくる

七輪を炉のかわりに使って、炭をいれて火をつけます。

七輪の空気入れの前にコンクリートブロックの穴を合わせて置き、ドライヤーをはめて空気を送り込みます。

ドライヤーの風によって炭が激しく燃えて高熱になります。



昔はフイゴを使って炉に空気を送り込んでいました。



鉄は建物・乗り物など、生活のあらゆるシーンに欠かせないものですが、世界で初めて鉄の道具を使つたのは、今から約5,000年前のこととされています。

日本で鉄作りが本格化したのは約1,600年前（古墳時代）ですが、古代の近江は日本有数の鉄生産地で、近江で作られた鉄は製品に加工され、都の建設などに使われました。

2) ハンマーで釘を打つ

* 皮手袋とゴーグルをつけて作業してください（火花が飛びます）。
熱で真っ赤になった釘をかなとこにのせてハンマーでたたきます。
10回くらいたいたら、また火の中に入れます。
これをくりかえします。



ペンチで釘を持つときは、
はさ
しっかりと挟みましょう。
挟み方がゆるいと釘が飛んで
けがのもとになります。



② 少しずつナイフの形になるようにたたきます。

③ ナイフの刃になるほうをたくさんたたいて、^{うす}薄くしあげます。

① まず釘の頭をたたきつぶし、ペンチで挟みやすくします。

3) 冷やして刃をとぐ

ナイフの形ができたら、赤く熱した後で一気に水につけて冷やします。
こうすることで、固くなります（「焼入れ」といいます）。



コンクリートブロックで刃をとぎます。

* 砥石（ブロック）とナイフの角度を保つように気を付けます。
鉄の地金がでてきいたら、砥石を使って刃を鋭くします。

* とぐ時に出る泥のようなものは、捨てずに水をたしてとぎます。

完成

人や動物など、いきものにナイフを向けたり、ふりまわしてはいけません。

人前でもやみにナイフをみせてはいけません。



てんねんそざいそめもの 天然素材で染物体験

☆用意するもの

なべ／さらし／たらい／はさみ／染料の材料（ここ

ではススキを使用）／染めたい布

（模様をつけるときは輪ゴムやビー玉を用意してね）

*媒染剤（作り方は右のページをみてね）



1) 染液をつくろう

生のススキをはさみなどで細かく刻み、なべに水と一緒に入れて火にかけます。
沸騰したら弱火にして20分くらい煮込みます。



液をさらしかがーゼでこします。



2) 染める

染液を80°Cくらいに温め、染める布を入れます。

そのまま20分間、さいばしでゆっくりかき混ぜます。

*染める布を輪ゴムで縛ったりして模様をつけてみよう。



まぜないでおいておくと
色ムラの原因になります。

3) 媒染

60～80℃くらいに温めた媒染液に約20分間、布を漬しながらかきまぜます。
染液が同じでも、媒染剤が違うとしあがりの色が違います。



* 媒染剤をつくろう

ここでは二種類の媒染剤の作り方を紹介します。

ムラなくかきまぜるとしあがりがきれいになります。

	椿灰媒染	鉄媒染
媒染剤の作り方	伐採された椿の木を灰になるまで燃やします。灰が冷めたら缶などに入れて保管します。  	古釣・酢・水を同じ重さずつステンレスの鍋にいれて煮ます。液の量が半分になるまで煮詰めます。 
媒染液の作り方	椿灰を少量、さらし（ガーゼ）に包み、お湯の中で揺すって灰の成分を溶かし込みます。	染める物の重量の2%くらいをお湯の中に入れてよく混ぜます。 *均一にしないとムラになります。
媒染すると…	黄色く発色します。 	緑がかかった灰色になります。 

4) 水で洗って陰干し

水ですすいでよく乾かします。

*染めた布は色落ちしやすいので、必ず水で洗ってください。



完成

布に色をつける最も簡単な方法は、岩石・草花など色の出るものを直接こすりつける方法で、縄文時代から行われていたと考えられています。

今から約2,000年前の弥生時代中期には、染めた布が出土しています（佐賀県吉野ヶ里遺跡）。日本では、染物の技術は弥生時代には確立していたようです。



いがた ちゅうぞう 鋳型を使って鋳造体験

☆用意するもの

なべ／合金（低温で溶ける特殊な金属を使用します）／鋳型／ペンチ
／剥離粉（ベビーパウダー）／紙やすり／金属やすり／金属みがき



1) 鋳型に粉をはたこう

溶かした金属が鋳型にくっついてしまわないように、鋳型に筆を使ってうすく粉をつけます。



しっかりと輪ゴムで固定しよう



つけすぎるとうまくいかないよ

2) 金属を溶かして型に流し込もう

合金をなべに入れて火にかけます。とけたら型にゆっくり流し込もう。



空気が入らないように
こぼれないように
ゆっくりと！



3~5分待とう

3) 固まったら型をはずそう



注ぎ口が固まったらOK

か
欠けてる！
あな
穴がある！

そんな失敗作ができたら…

もう一度溶かして型にいれなおそう。

4) バリをとろう

ペンチを使っていらない部分を切り落とそう。切り口はヤスリでととのえよう。



完成！？

…いいえ、まだまだこれからです。

5) 鏡面をみがこう

紙やすりを使って鏡面（平らなほう）をみがこう。顔がうつるくらいぴかぴかになるかな？



もともとは姿をうつす道具でしたが、古代の人たちは、太陽の光を反射する神妙な力をもつ宝物として、魔よけやまじないなどに使うようになりました。

日本に中国で作られた青銅製の鏡が伝わってきたのは、弥生時代前期（約2,200年前）といわれています。※青銅＝銅にスズを加えた合金のこと。



のぞいてみよう！整理室

夏休み体験学習セレクション

発掘調査で出てきた土器や木器は、埋蔵文化財センターに運び込まれます。そこで、復元したり、じっくり観察して図面を作ったり、発掘調査の報告書を作るまでの作業を行います。また、博物館などの展示に備えて、大切に保管することも重要な仕事です。



きれいに洗うことからはじまります。模様など
が消えてしまうので、細心の注意が必要です。



破片を一つづつ探し出して、元の姿に復元します。



洗い終わった破片には、どこから見つかった
かを、小さな文字で記録します。



復元できた土器を実測し、図面
を作ります。



コンピューターを使って、製図します。
同時に、報告書に掲載できるように、編集します。



木製品は、樹脂に
浸けて、変形しないようにします。



写真撮影は大切な作業です。
本格的にライトやカメラを使って、はいポーズ!



報告書執筆中！じやまをしないでください。



展示などの活用に備えて、大切に保管しています。



発掘調査報告書が完成！
私の力作、読んでください。

川の跡からザックザック！



かみ あさ てん 上御殿遺跡

高島市安曇川町三尾里

新石器15000年	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
-----------	----	----	----	----	----	----	----

上御殿遺跡は高島市の南部、鴨川の北岸に広がる遺跡で、継体天皇出生伝承地にほど近い場所にあります。平成20年度から発掘調査を開始し、現在も調査は続いている。これまでの調査で、弥生時代の終わり頃から中世にいたる約1,000年間流れていた川の跡と、そのほとりに営まれた集落や墓の跡などが見つかりました。川の跡からはマツリに使われた大量の木製品や土器などが出土しています。昨年度の発掘調査では、銅剣鋳型が出土し、注目を集めました。

写真1 「双環柄頭短剣」の鋳型



写真2 古墳



写真1は平成25年度に出土した銅剣の鋳型です。集落のある平坦な場所から、川へ向かう斜面で、2枚の鋳型が鋳込み面を合わせた状態で出土しました。この鋳型は「そうかんつか双環柄頭がしらたんぽ短剣」という剣の鋳型で、柄の頭に二つの環がならんでいるのが大きな特徴です。このような短剣は国内だけではなく朝鮮半島にも例がなく、中国北方地域の春秋戦国時代(約2700~2200年前)のオルドス式銅剣に似ています。しかし、柄の文様に、日本の銅鐸や武器形青銅器、中国東北部から朝鮮半島に多いた ちゆう さい もん さよう多紐細文鏡に使われる文様が見られます。このことからこの鋳型は、オルドス式銅剣をモデルにして、弥生時代中期から古墳時代前期頃(2000~1500年前)に国内で作られたものと考えられます。しかし、なぜこのような鋳型が高島のこの地にあるのかは謎

です。

写真2は川のほとりで見つかった古墳時代後期の古墳で、直径約12.8mの円墳です。短辺に石と粘土を積み上げると行った日本海側地域との交流を示す木棺が、埋葬主体部に納められていました。木棺からは、青色などのガラス小玉が約70点出土しました。埋葬された人は、ガラス玉を連ねた装身具を身につけていたのでしょうか。

写真3・4は川の中から見つかった、奈良時代から平安時代のマツリに使われた道具です。写真3は、土器の表面に「もりさみのふなひと守君船人」と墨書きされた土師器の甕です。写真4は人形代かめです。なかなか面白い顔をしています。このようなマツリに使われた遺物が大量に出土しており、長年にわたってこの場所がマツリを行う場所であったと考えられます。

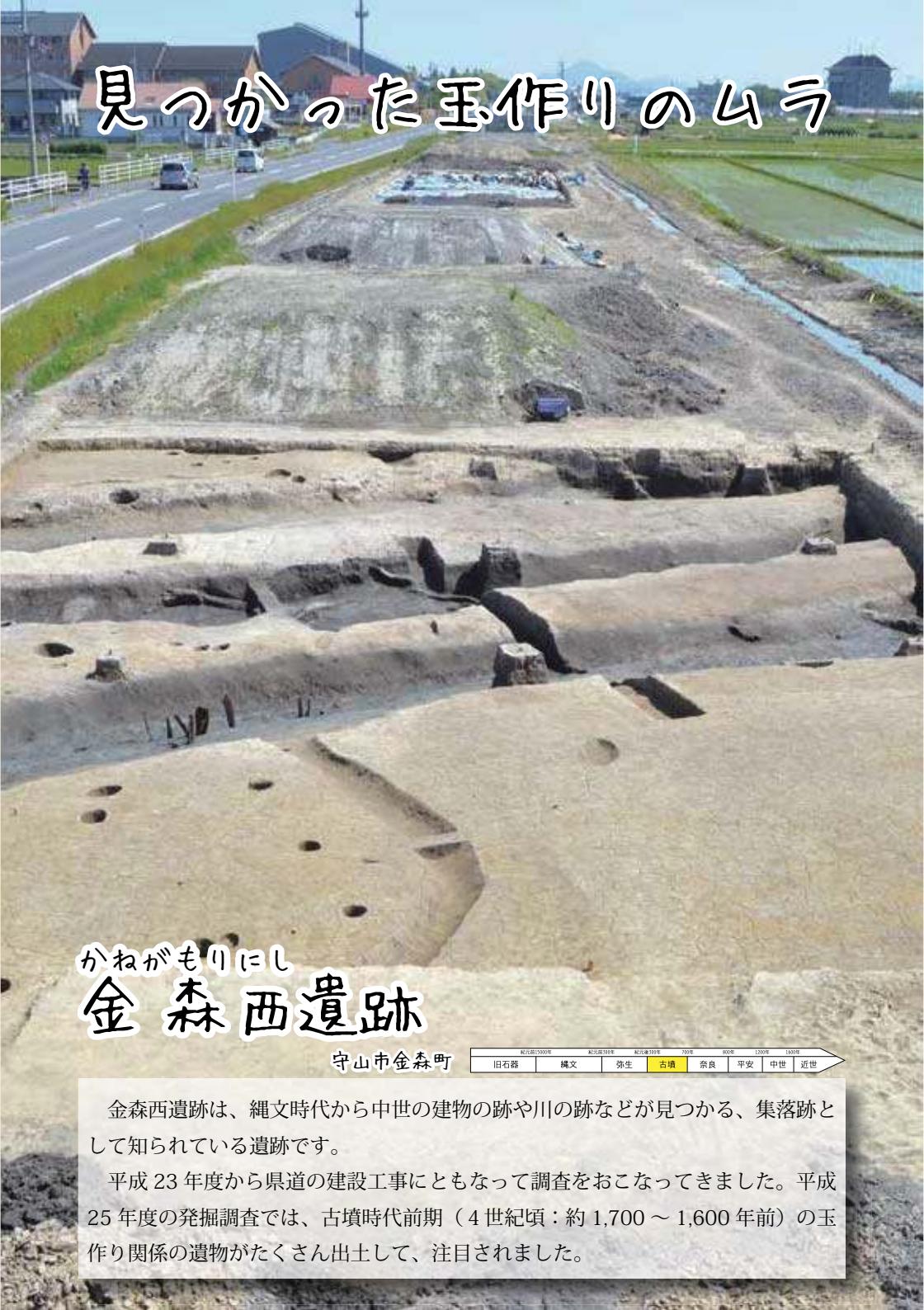
写真3 墨書き土器



写真4 人形代



見つかった玉作りのムラ



かねがもりにし 金森西遺跡

守山市金森町

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
-----	----	----	----	----	----	----	----

金森西遺跡は、縄文時代から中世の建物の跡や川の跡などが見つかる、集落跡として知られている遺跡です。

平成23年度から県道の建設工事にともなって調査をおこなってきました。平成25年度の発掘調査では、古墳時代前期（4世紀頃：約1,700～1,600年前）の玉作り関係の遺物がたくさん出土して、注目されました。

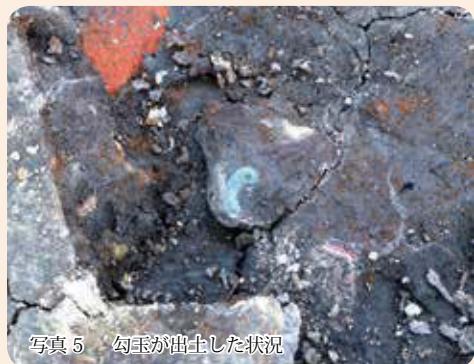


写真5 勾玉が出土した状況



写真6 緑色凝灰岩系

今回の発掘調査では、建物跡や川・溝等がたくさん見つかりました。とくに川や溝の中から古墳時代前期の土器などの遺物が非常にたくさん出土しましたが、この中に玉類を生産していた証拠となるような遺物が含まれていたのです。

玉とは、おもに石で作ったアクセサリー類のこと、マカロニのような形の管玉、丸い頭にしっぽがついたような勾玉（写真5）のほかに、丸玉・白玉などがあります。今回見つかったのは、緑色凝灰岩という緑色のきれいな石で作った管玉と、滑石という灰色の石で作った管玉・勾玉・白玉です（写真7）。これら玉類以外にも滑石の製品では、刀子（ナイフ）や剣の形をまねして作ったものや、糸を紡ぐときに使う紡錘車、有孔円板があります（写真8）。中でも有孔円板がもっともた

くさん出土しましたが、これはうすい滑石製の円板に小さな穴を開けたボタンのようなもので、鏡の形をまねして作ったと考えられています。穴は一つのものと二つのものがあり、大きさには大（直径約3cm）・中（直径約2cm）・小（直径約1.5cm）の3種類があります。大きさや穴の数に何か約束ごとでもあったのでしょうか。

見つかった玉類や滑石製品の一部には、完成品のほかに、作っている途中のもの（未完成品）や、作っている途中にこわれたもの（破損品）があり（写真7）、また、原料の石や、石を加工する時に出る石屑（剥片）も見つかりています。このことから、今回調査をした場所の近くに、玉作りをしていた工房があったのではないかと考えられるのです。

現地説明会にて配布した資料が当協会ホームページからご覧になれます。



写真7 滑石未製品



写真8 滑石製品

古墳でおマツリ？



よしみにし 吉身西遺跡

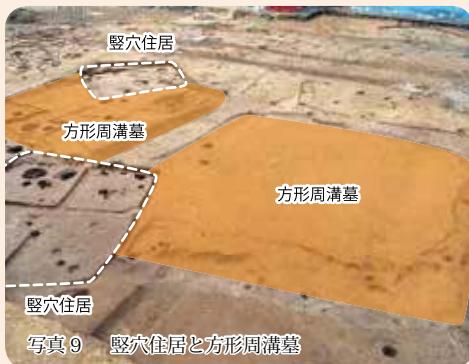
守山市守山町丁目

紀元前500年 紀元前11世紀 紀元前3世紀 7世紀 8世紀 12世紀 16世紀

旧石器 繩文 弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世

吉身西遺跡は、縄文時代から中世の集落跡として知られている遺跡です。

平成25年度に滋賀県成人病センター改築工事にともなう発掘調査をおこないました。古墳時代から平安時代の建物の跡、墓、マツリをした跡などが見つかりました。古墳時代中期（5世紀頃：約1,600～1,500年前）の古墳を対象としたマツリの跡が見つかったことで注目されます。



今回の発掘調査では、古墳時代前期（4世紀）の建物跡と方形周溝墓（写真9）、古墳時代中期の円墳、古墳時代後期（6世紀後半）と奈良時代から平安時代（8世紀～9世紀）の建物の跡やマツリの跡などがみつかり、長い時間にわたって人びとが、ここで生活をしてきたことがわかりました。

さて、古墳が信仰の対象になっていた跡はどのようなものなのでしょうか。古墳はその当時の有力者の墓なのですが、信仰の対象になっていたと考えられるのは、古墳時代中期の直径 25 m の円墳です（写真10）。この古墳は周囲に幅 5 m ほどの溝を円形に掘り、溝を掘って出てきた土などを溝の内側に盛って小山のようにし、その中心に遺体を埋葬したものでした。時がたつと、古墳は崩れてまわりの溝がすこしづつ埋まり、その存在は世の

中から消えようとなります。しかし、この古墳ができる約 100 年後（古墳時代後期）に、埋まりかけた溝の中でわざと壊した土器を埋めた跡がみつかりました（写真11）。さらに、100 年後の奈良時代でも、円墳の横で土地の神を鎮めるために土器を埋めた可能性のある穴がみつかりました（写真12）。

土器の一部を壊して使えなくして埋めるという行為は、その土器を供え物とした祭祀（マツリ）だと考えられています。古墳は地上から消えていきますが、近くに住んでいた人びとの記憶には、そこが神聖な場所、敬わなければならない場所として残っていたのではないかでしょうか。



これぞ、発掘の醍醐味

予想もしなかった古墳時代の山城と古墳を発見！

よこやまじょう
横山城遺跡

長浜市石田町

紀元前1500年 紀元前1100年 紀元前900年 700年 800年 1200年 1600年

旧石器 織文 弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世

横山城遺跡は、戦国時代の横山城に関連する遺跡として知られていました。

今回の発掘調査は、観音坂トンネル関係の県道整備工事にともなって実施しました。調査前には、横山城に関連する遺構が見つかるのでは、と予想していたのですが、調査の結果、古墳時代終わりごろの古墳と竪穴住居30棟が見つかりました。さらに、それらの遺構とともに、多数の土器類（須恵器・土師器）が出土しました。



写真 13 みつかった堅穴住居群



写真 14 生焼けの須恵器

堅穴住居は狭い範囲で何棟も重なった状態で見つかっており（写真 13）、何度も建て替えられたようです。住居のなかから出土した土器の特徴から、7世紀頃（約1400年前）のものであることが分かりました。

出土した土器には須恵器と土師器があります。土師器は縄文土器以来の野焼きでつくった赤っぽい土器のこと。一方の須恵器は、約1600年前に朝鮮半島から伝わった新しい窯焼き技術で焼かれた土器で、ねずみ色に堅く焼き上げられています。横山城遺跡から出土した須恵器のなかには、焼きひずんだものや、赤っぽい生焼けの製品（写真 14）があったほか、窯焼きのさいに使用した窯道具（焼くときに土器どうしがくっつかないためにもっていた土製の台）が出土しました。このような遺物から、このムラに須恵器の生産にかかわ

る人たちが住んでいたと考えられます。

古墳は6世紀（約1500年前）のもので、本来は横穴式石室（石組みで埋葬用の空間をつくったお墓）だったのですが、残念ながら後世に石組みの大半を取りのぞかれたために、底の石組みが一部残っていました（写真 15）。しかし、石組みのまわりからは、亡くなった人へのお供えものを入れたと思われる須恵器の容器や鉄刀等が出土しました。

どういうわけか、堅穴建物から古墳時代の耳飾りがみつかりました（写真 16）。集落があったとき、古墳もまだ残っていて、村人が古墳で拾ったのかもしれません。

このように、今回の調査では目的としていた横山城に関係する遺構はみつかりませんでしたが、予想もしない古墳や須恵器づくりの人々が住んでいたムラのあとを確認するという成果をえることができました。



写真 15 わずかに残った石室



写真 16 耳飾り

古墳時代と鎌倉時代の暮らしが新たに発見!



貴生川遺跡

甲賀市水口町貴生川

紀元前1500年	紀元前1100年	紀元前900年	700年	800年	1200年	1300年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世

今回の発掘調査は、甲賀市教育委員会からの依頼で、土地区画整理事業にともなう発掘調査を実施しました。この付近は今まで発掘調査があまり実施されておらず、遺跡の状況はよく分かっていませんでした。調査の結果、古墳時代中期（約1600年前）の堅穴住居や、鎌倉時代（約800年前）の建物やお墓（土壙墓）が見つかりました。



写真 17 鎌倉時代の掘立柱建物



写真 18 鎌倉時代のお墓（土壙墓）

鎌倉時代の建物は、穴を掘ってそのなかに柱を直接立てた掘立柱建物とよばれる構造のものです（写真 17）。全部で 3 棟を確認しました。おそらく、屋敷地の一部に相当すると考えられます。建物の周囲では、土器を埋め納めた小さな穴も見つかりました。地鎮等のおまつりに関連する遺構であると思われます。また、お墓は建物から少し離れた地点にあり、長方形の穴（約 2m × 1.5m）を掘って、遺体をおさめた土壙墓で、内部から白磁碗や土師皿が出土しています。（写真 18）

古墳時代の竪穴住居は 3 棟みつかりました。いずれも地面に正方形に穴を掘りくぼめ、その床に柱を立て、屋根を架けた構造です（写真 19・20）。住居内部の壁際には、生活に必要なものをおさめたと思われるやや大きな穴（貯蔵穴）があり、そこから土器が出土し

ています（写真 21）。これらの土器の特徴から、住居は古墳時代中期頃に作られたことが分かりました。

このように、今回の調査では、甲賀市域でも数少ない古墳時代のムラと、鎌倉時代の屋敷地を確認する成果をえることができました。調査は現在も継続中であり、新たな発見が期待されます。



写真 19 古墳時代の竪穴住居



写真 20 古墳時代の竪穴住居



写真 21 竪穴住居の貯蔵穴から出土

その他の主な調査遺跡

① 名勝慶雲館庭園

庭園保存整備事業に伴う発掘調査。明治時代に作られた庭園の流れ部分の発掘調査。築庭当初の様相が判明しました。

(長浜市港町)



② 名勝清岸寺庭園

庭園保存修理事業に伴う発掘調査。庭園の景石の状況が明らかになりました。

(米原市米原)



③ 松原内湖遺跡

国道事業に伴う発掘調査。谷状地形や溝・土坑等を検出し、縄文土器・古墳～奈良時代の須恵器・土師器等が出土しました。

(彦根市松原町)



④ 臨済庵遺跡

県道事業に伴う発掘調査。シシ垣を検出。シシ垣には一石五輪塔を転用しています。

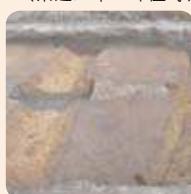
(東近江市永源寺相谷町)



⑤ 狩氏館遺跡

農村整備事業に伴う発掘調査。溝・土坑・井戸等を検出しました。

(東近江市三津屋町)



⑥ 安養寺遺跡

県道事業に伴う発掘調査。中世の掘立柱建物やそれを取り囲むような溝を検出。近世の井戸や、奈良時代の瓦も出土しました。

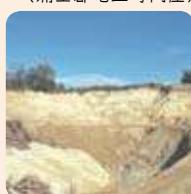
(近江八幡市安養寺町)



⑦ 堤ヶ谷遺跡

工業団地造成工事に伴う発掘調査。開析谷を検出し、埋土中から弥生土器が出土しました。

(蒲生郡竜王町岡屋)



⑧ 島遺跡

砂防工事に伴う発掘調査。奈良時代の土坑墓等を検出し、奈良時代頃の須恵器・土師器が出土しました。

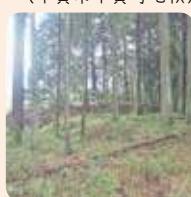
(近江八幡市島町)



⑨ 毛枚北城遺跡

防災工事に伴う測量調査。単郭式の山城の構造が良好な状態で遺存する毛枚北城跡の現況地形測量図を作成しました。

(甲賀市甲賀町毛枚)



⑩ 太子遺跡

国道事業に伴う発掘調査。縄文時代の土器棺墓・中世の掘立柱建物・中世～近世以降の流路・溝等を検出しました。

(大津市太子2丁目)



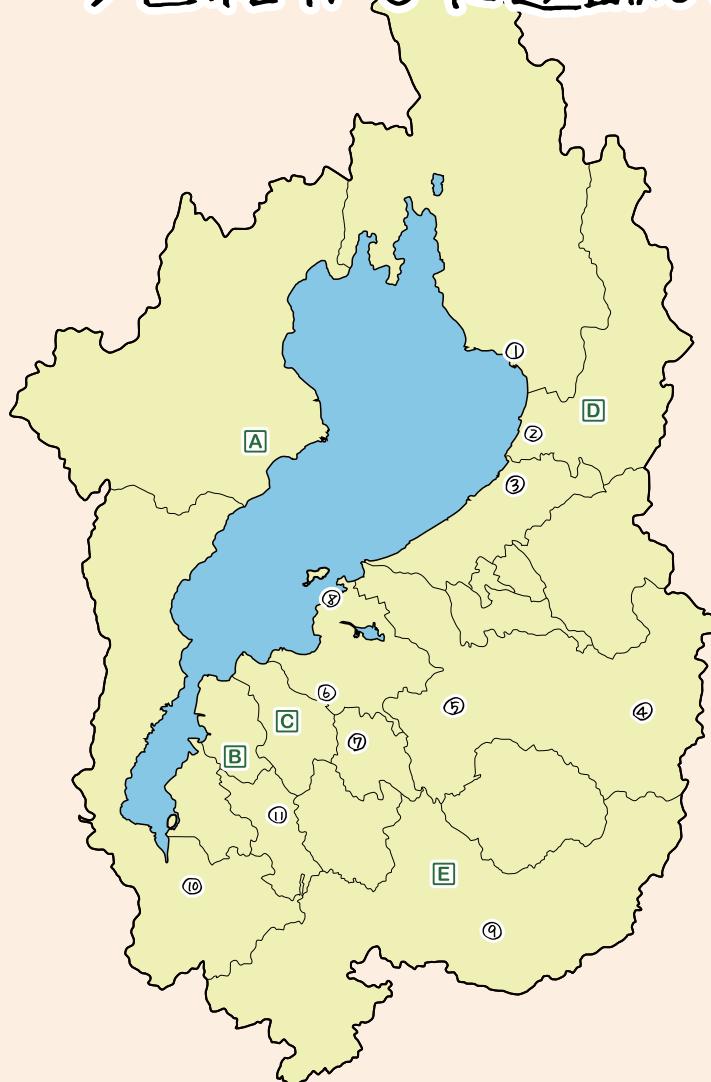
⑪ 岡遺跡

(栗東市岡)

県道事業に伴う発掘調査。ピット・土坑・溝等を検出。溝内から、7世紀後半頃の須恵器が多量に出土しました。



今回紹介した遺跡の位置



A 上御殿遺跡

B 金森西遺跡

C 吉身西遺跡

D 横山城遺跡

E 貴生川遺跡

①～⑩ 左ページ

⑪ このページ上

開催期間中の無料イベント



火起こし体験

水～金
13:00～17:00
*
土・日
9:00～17:00



バックヤード見学ツアー

作業現場を公開します。
*
月曜 13時～
予約不要・随時実施
受付にお申し出ください。



質問受付口

昔のことについてご質問の方はお気軽にお尋ねください。

*

受付時間 隨時



古代の衣装を着てみよう

毎日
9:00～17:00
*
ご自由に着用・撮影していただけます。